

## 平成29年2月定例会 総括審査会

### 川田昌成議員

委 員	川田 昌成
所 属 会 派 (質問日現在)	ふくしま未来ネット
定 例 会	平成29年2月
審査会開催日	3月16日（木曜日）



#### 川田昌成委員

私は、常々繁栄は郷土愛からということを信条にしている。先ほどは西山委員から英語の重要性、そして教育長からはグローバル化についての大切な話があったが、やはり生まれ育ったふるさとを愛する郷土愛こそが一番ではないかと思っている。

このたび、日本遺産に認定された安積疎水、会津の三十三観音めぐりは中学生たちの教育にうってつけではないか。

そこで、中学生の郷土愛を育むために日本遺産などの地域文化財を活用した市町村の取り組みを支援すべきと思うが、県教育委員会の考えを聞く。

#### 教育長

地域の歴史や文化は、子供たちの郷土愛を醸成する上で欠かせない貴重な宝である。このため、日本遺産として認定された文化財群の一つである安積疎水や勝常寺を始め、牧場の朝の岩瀬牧場など、郷土の文化や伝統をインターネットで検索できる「うつくしま電子辞典」を学習教材として作成し、授業等で活用している。

今後とも先人の功績に思いをはせ、ふるさとに誇りを持って前向きに生きる力を育む教育に努めていきたい。

#### 川田昌成委員

今、我々のふるさとの岩瀬牧場の話があったが、日本遺産もさることながら、近い将来、この福島県のすばらしい宝を世界遺産にでもと夢を大きく広げたらと思うが、どうか。

#### 教育長

先ほど述べたとおり、郷土愛を育むことは大変重要だと思っており、世界遺産はハードルもあるが、日本遺産もかなり効果はあると考えている。そこで、例えば日本遺産の制度からいえば、史跡、名勝、伝統芸能などのソフトも含めた有形無形の文化財を点ではなく、市町村がストーリー化して面として結びつけて物語性を持たせて発信していくための登録制度であるので、このような制度の認定に向けて、さらなる周知に努め、市町村の機運が醸成するように助言していきたい。

#### 川田昌成委員

きのうの新聞に荒川の堤防、堰を日本遺産に登録する活動をしているという記事を見たが、県教育委員会ではどのようなものを探っているのか。

## 教育長

教育委員会は、文化財の登録、保存の窓口となっている。例えば、今話のあった福島市の荒川については、地域の団体が日本遺産を目指す活動をしていて、こういった活動はそれぞれの地域で行われており、市町村が窓口となっている。このため申請の相談があれば、県としては登録に向けて積極的な助言をしていきたい。

## 川田昌成委員

次に、先ほど安部委員からドクターヘリの話があったが、防災ヘリについて尋ねる。長野県で3月5日に防災ヘリコプターの大事故が起きた。この間の答弁で新しく機体の更新を予定しているとのことだが、その更新される消防防災ヘリコプターの安全対策について尋ねる。

## 危機管理部長

消防防災ヘリコプターの安全対策については、航行の安全のための自動操縦装置、2,000mを超える山岳救助でも余力ある上昇性能、つり上げ救助の際に姿勢を一定に保つオートホバリング機能、操縦室でつり下救助の状況を確認できるホイストカメラなど最新の安全装置を導入し、安全を確保する予定としている。

## 川田昌成委員

危機管理部長は、長い間、本県の大変厳しい環境の中で防災行政のトップとしてつかさどってきたが、間もなく勇退するということなので、今までの経験や体験を生かして、何か県民にこうあるべきだという思いがあれば聞く。

## 危機管理部長

我々の防災と危機管理は東日本大震災が原点と理解している。その後、当時の反省を踏まえてさまざまな備えをしてきたが、あの当時、我々もが抱いた危機感というか、自分で家族を守れないというような危機感を覚えた。そういったものを検証していくなければ、また新しい危機が起きたときに備えが形だけのものになっていくと思っている。そういう意味で自助、共助、公助という考え方を県民にも強く持ってもらい、地域防災の向上を目指してきたが、県庁も含めそういった当時の思いを長く引き継いでいく、検証していくことが重要であると思っている。

## 川田昌成委員

長い間、感謝する。どうかひとつ体に留意し、これから県政のために頑張ってほしい。また、私にとっては、最後にこのような大変貴重な時間をもらい、皆に感謝して質問を終わる。